

社会自立をする力を育てるための作業学習

年間指導計画の作成

目 次

I	テーマ設定理由	51
II	研究仮説	51
III	研究の全体構想図	52
IV	特殊教育とは	53
V	教育課程とは	54
VI	指導計画の作成	55
	(1) 年間指導計画	57
	(2) 年間指導計画	58
VII	作業学習	59
	(1) 作業学習年間計画表	60
VIII	指導の実際	62
1	題材名：三角形と四角形	62
2	題材設定理由	62
3	題材の目標	62
4	指導計画	62
5	本時の指導：図形の組合わせ	63
	(1) 本時の目標	63
	(2) 展開	64
	参考資料	65
	タングラム	65
	作業学習評価表	67
	作業実践例（ マガジンラック チリシ入れ）	68
	子猫の鉛筆たて	69
IX	まとめと今後の課題	72
	主な参考文献	72

社会自立をする力を育てるための作業学習

—— 年間指導計画の作成 ——

宜野湾市立宜野湾中学校教諭 比 嘉 栄 吉

I テーマ設定理由

作業学習の初めの姿は「内職」を教える指導であり、「手に職をつける」作業、「たべさせていく」ための生産学習といわれていたが、時代と共に変化し、近年は学習指導要領の各教科や道徳、特別活動、養護、訓練等、の内容を合わせた総合学習、すなわち、領域・教科を合わせた指導といわれている。その指導形態として、「日常生活の指導」「遊びの指導」「生活単元学習」「作業学習」があると学習指導要領解説に説明されている。

障害の程度が違い、学年の違う特殊学級において、指導内容や指導方法もおおのずと領域・教科を合わせた指導が重視されていくべきである。障害者を取り巻く社会環境の変化や児童生徒の心身の障害の多様化に対応するため、特殊学級の教育課程の編成は学校教育法施行規則の第73条の19に基づいて特別の教育課程によることができるとされている。

特別な教育課程による場合には、小学校、中学校の設置者にあらかじめ届け出なければならない。特殊学級入級対象者は職業生活が可能な軽度の精神遅滞の児童生徒を主体としているので計画的に教育をすれば十分に社会参加、自立できるにも関わらず、現実には「できないのでやってあげる」という親切が、甘えとなり依頼心の強い子になってしまうことも考えられる。

本校の特殊学級は男女各1名が在籍している。A君は運動能力に優れ、走競技、バスケットボールなども上手である。S子さんは、言語障害がありひらがながやっとかける書ける程度で、くり上がりくり下がりの計算も不十分である。二人は、糸ノコ工作に興味を示し、喜んで利用している。興味関心を持たせ、個性の伸長をはかるために、領域・教科を合わせた指導を教育課程の中で、どのように計画し、いかに組立て実践していくか、大変重要なことである。

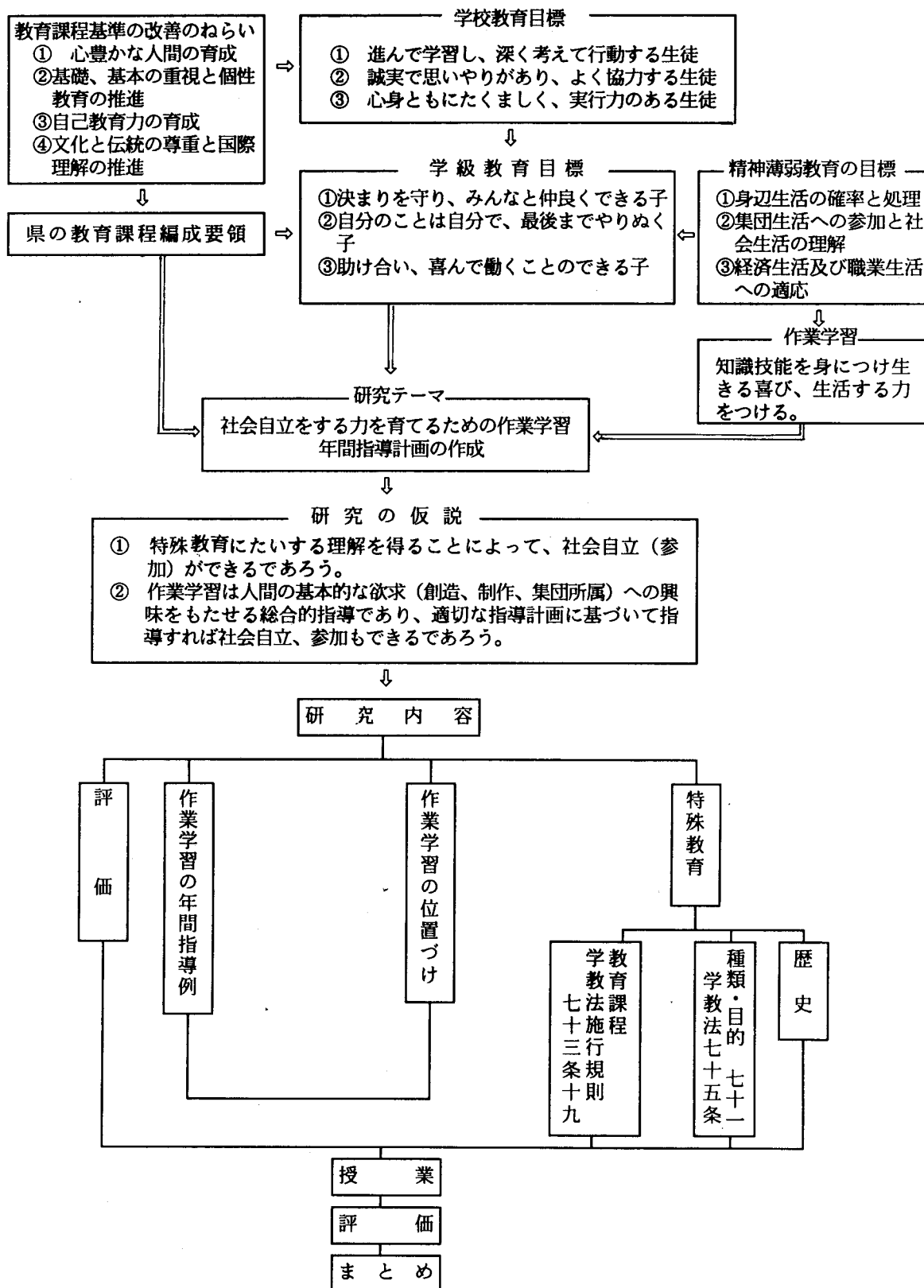
知的に障害があり、精神発達が未分化な精神薄弱児に通常の教育課程では十分に習得することがむづかしいので、教科中心の教育課程でなく教科的生活中心教育課程、すなわち、分類形式は教科で内容は生活中心になるべきである。したがって、特殊学級担任は教科の指導はもちろんであるが、より具体的な活動を通して生活に即して総合的に指導しなければならない。

作業学習は、生徒が最も興味を示す学習であり、生徒に生活する力、情緒の安定、働く意欲と態度を身につけさせるために有効な指導法である。作業学習を研究し改善を加えていけば意欲的学習態度がめばえ、将来の社会自立に役立つだろうと考え作業学習の年間計画を作成し、どのような内容を、どの程度どのように指導すればよいか研究したいと思い本テーマを設定した。

II 研究仮説

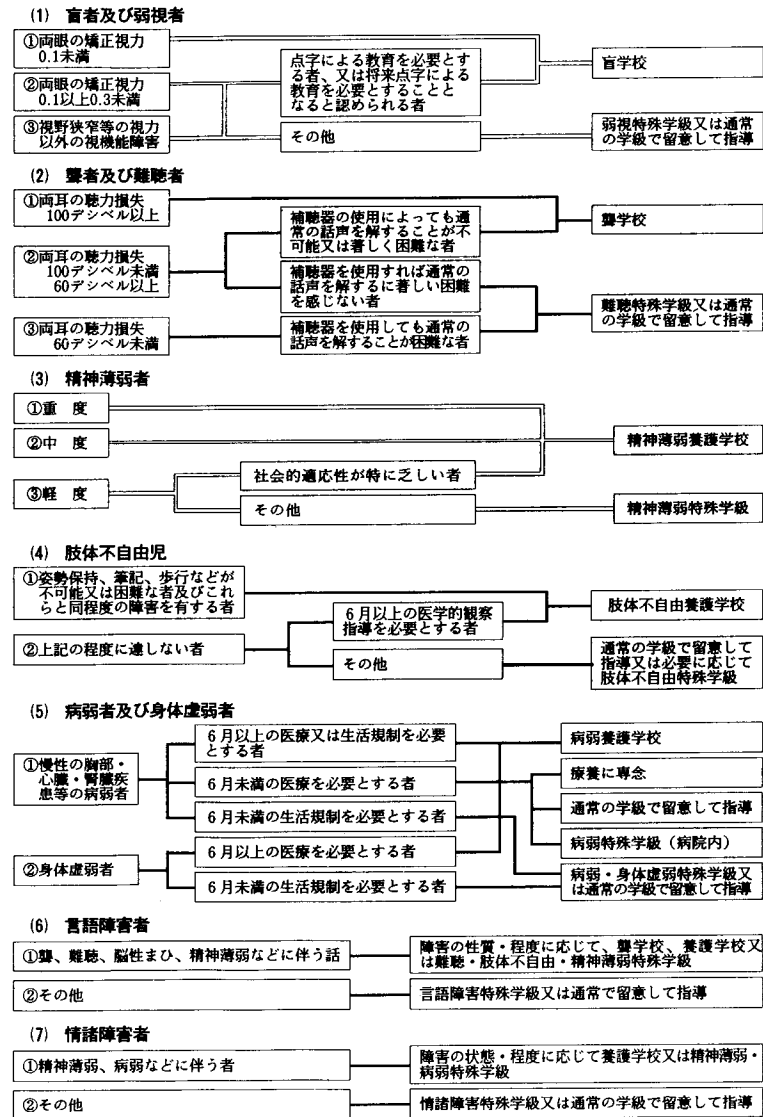
- ① 特殊教育にたいする理解を深めることによって、社会自立（参加）ができるだろう。
- ② 作業学習は人間の基本的な欲求（創造、製作、集団所属）への興味をもたせる総合的指導であり、適切な指導計画に基づいて指導すれば社会自立、参加もできるであろう。

Ⅲ 研究の全体構想図



IV 特殊教育とは

心身に障害があるため、小学校や中学校の通常の学級における教育では十分な教育効果の期待できない児童生徒に対して、その心身の障害の状態や発達段階に応じて適切な教育環境を整え、その可能性を最大限に伸ばし、可能な限り積極的に社会に参加する人間に育てるため、特別な配慮のもとに手厚い教育を行うことを特殊教育とよんでいる。特殊教育には特殊教育諸学校（盲学校、聾学校、及び養護学校）と小学校、中学校の特殊学級における教育を特殊教育と呼んでいる。養護学校は精神薄弱児、肢体不自由児、病弱児（身体虚弱児）を対称とする三種に区分される。特殊学級は、軽度の心身障害児のために精神薄弱、肢体不自由病弱、身体虚弱、弱視、難聴、言語障害、情緒障害の種類にわけられる。特殊学級において教育することが適当と思われる程度と、その障害の種類によって、一人一人の心身障害児に最もふさわしい教育の場をどこにもとめるかは重要なことであります。それゆえに県や市町村の教育委員会は適切な就学指導を行うために次のようなことをしている。市町村及び都道府県の教育委員会には、医師、教員、各方面の専門家からなる「適正就学指導委員会」が置かれ相談にのっている。県教育委員会から特殊教育啓発資料として発行されている、「心身障害児の理解と教育」に障害の程度と就学先の学校の目安として次の様に記載されている。



V 教育課程とは

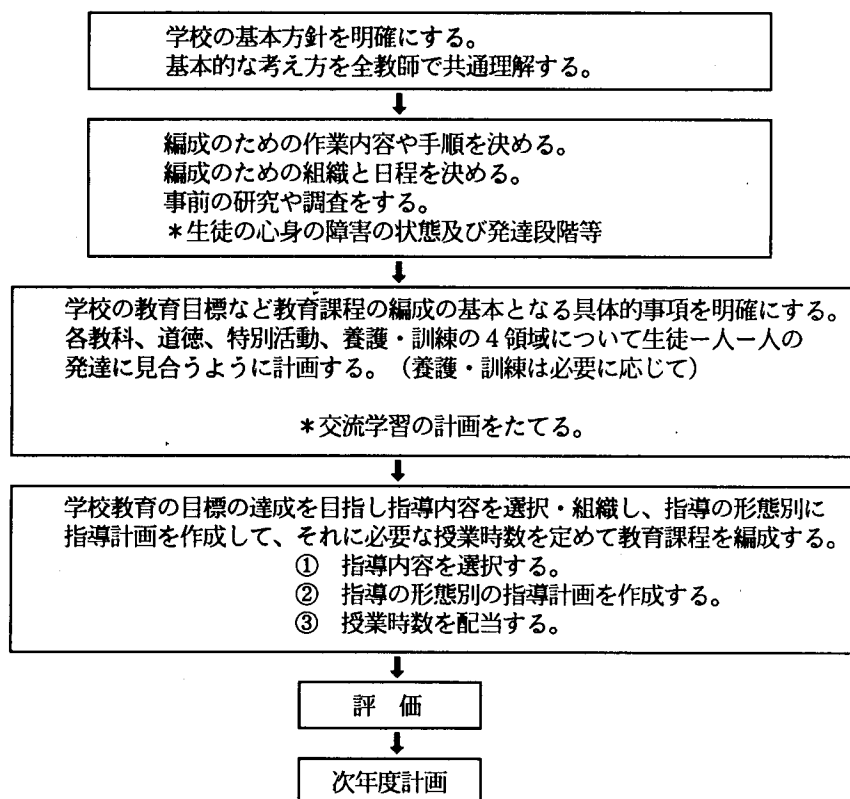
学校教育の目的、目標を達成するために、教育内容を子供の心身の発達に応じ・授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である。特殊教育においても義務教育であり、全国的に一定の教育水準を確保するために、国として一定の基準を設けて国全体としての統一性をたもつことが必要となる。一方、教育は、その本質からして生徒の心身の障害の状態及び発達段階や特性等並びに地域や学校の実態に応じておこなわれることが大切である。それゆえに、特殊学級の教育課程について、教育課程編成の特例を設けている。（学校教育法施行規則第73条19）

文部大臣は小学部・中学部学習指導要領を告示で定め、各学校の教育課程の編成及び実施に当たっては、これに従わなければならない。従って生徒の障害の状態及び発達段階や特性等並びに地域や学校の実態を十分考慮して編成すべきである。

教科用図書は、当該小学校及び中学校の設置者の定めるところにより、他の適当な教科用図書を使用することができる。（学校教育法第107条及び学校教育法施行規則第73条の20）ただし、この場合は、原則として、下学年用の検定教科書、又は文部省が著作の名義を有する教科用図書が精神薄弱養護学校用のものを使う方が望ましい。

特殊学級は、一つの学級であり、学校組織の中で孤立したり、特別扱いされることなく、学校全体の協力体制と理解を得て、特殊学級の生徒の社会性を育て、好ましい人間関係を育てるためには、集団活動は不十分である。通常の学級との交流を積極的に計画する必要がある。特殊学級の教育課程は、学校全体の教育課程と大きなかわりをもってくる。したがって、教育課程の編成は、校長が責任者となり、各学校が行うものである。具体的には、教育過程編成のための委員会を設置し、編成にあたるべきである。このように特殊学級の教育課程も多くの教師の協力を得て組織的に編成する必要がある。又、学習指導は、各教科、道徳、特別活動、などの領域にわけ、実際の指導については、領域・教科を合わせた指導でなされることをきちんと説明し理解と協力を得る必要がある。そこで、簡単に特殊学級の教育課程の手順を図示すると次のようになる。

特殊学級の教育課程の編成



VI 指導計画の作成

精神薄弱特殊学級において、各教科、道徳、特別活動及び養護・訓練の指導をおこなうにあたっては、それぞれ具体的な指導目標、指導内容、指導方法、指導順序、教材、時間配当などを定めた具体的な指導計画を作成する必要がある。指導計画作成にあたっては、教師は、子供たちの実態をしっかりと把握するとともに、学校のおかれている地域社会の種々の条件を十分に考慮することが大切である。参考のために、精神薄弱養護学校における授業形態別の時間とその割合（表1）と特殊学級と本校の配当時数を記載する。

授業形態別の時間とその割合（表1）

形 態			区分	小学部 中		小学部 高		中学部		高校部		中 学 部 特 殊 学 級	編成 の 手 引 き
			年度	51	53	51	53	51	53	51	53	平成3年	
合 領 わ 域 せ ・ た 教 指 科 導 を	遊 び 学 習		時間	－	2	－	2	－	－	－	－	－	－
	生 活 単 元 学 習		時間	9	5	9	5	4	4	4	2	－	4
	作 業 学 習		時間	－	－	1	1	8	8	12	11	5 (枝／家)	9
	日常生活の指導		時間	1	6	2	5	－	3	1	1	－	－
教 科 別 ・ 領 域 別 の 指 導	教 科 別 の 指 導	生 活	時間	－	2	－	2	－	1	－	1	1	
		国 語	時間	3	2	3	3	3	3	2	3	4	3
		社 会	時間	－	－	－	－	1	－	1	1	2	1
		算数(数学)	時間	3	2	3	2	3	2	2	2	4	3
		理 科	時間	－	－	－	－	3	－	3	3	2	1
		音 楽	時間	3	2	3	2	2	2	2	2	2	2
		図工(美術)	時間	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
		体育(保健)	時間	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3
		英 語	時間	－	－	－	－	－	－	－	－	2	1
	領 域 別 の 指 導	道 徳	時間	－	－	－	－	－	－	－	－	1	
		特 別 活 動	時間	1	1	2	2	3	2	3	3	2	1
		養護・訓練	時間	3	2	3	2	2	2	1	1	－	1
調 査 役			34	29	34	32	35	33	16	27	1	*	**

教育過程・宮本茂雄、細村迪夫編著より

調査校の *は宜野湾中

**は 精神薄弱特殊学級

(教育課程編成の手引き P126の例より)

この表からも分かるように、領域・教科を合わせた指導の形態として「遊びの学習」「生活単元学習」「作業学習」「日常生活の指導」がある。「遊びの学習」「生活単元学習」「日常生活の指導」は学年が進むに従って減少し、反対に作業学習は増加し重視されていくべきである。作業学習は将来の職業的・社会生活への参加を目指し、作業活動を中心とする実践的な経験を通して、生活の自立に必要な事柄を学習させようとする指導の形態である。従って作業学習は職業及び家庭など1教科、1領域の内容だけでなく、各教科、道徳、特別活動及び養護・訓練の内容を総合した形で取り扱うべきである。作業学習を技術・家庭と週時程表に表示すると教科別・領域別指導にとらえられるおそれがある。宜野湾中では、教科別・領域別指導に通常あるべき技術・家庭と週時程表で組みながら、内容に於て領域・教科を合わせた指導として作業学習として学習を進めている理由は次のことからである。

- 教科名を表示してあるが、中身は簡単な作業学習の内容で反復作業が主である。

(例 ナベ敷き、子猫の鉛筆たてなど前もって教師がボール紙に型紙を作っておき生徒は型紙にそって、ただなぞるのみで製図はさせない。)

- 普通学校において、他の学級と違う内容の時間割を表示すると、質問が多く生徒を萎縮させる恐れがある。

* 特殊学級においては、各教科、道徳、特別活動、及び養護・訓練について、それぞれ時間が定められているわけではない。したがって、何をどの程度指導したらよいのかは、子どもたちの実態にあわすべきである。

さて、教育課程の編成、教科時数割り振りをみてきたが、常に次のような観点から評価をしながら進める必要がある。

- (1) 学習指導要領をはじめとする国及び都道府県等の示す指針がみたされているか。
- (2) 学校の教育目標及び特殊学級の設置目標が教育課程及び生徒指導等に反映されているか。
- (3) 教育課程は生徒の実態に合わせて編成されているか。
- (4) 教職員や施設・設備等を考慮して編成、実施されたか。
- (5) 父母や地域社会の適合するように編成、実施されたか。

教育課程の中心となるべき年間計画を作成し、作業学習をより詳しく学習活動・目標・留意事項・材料等を記した年間計画の作成を試みた。

年間指導計画作成に当っては次の事を基本において作成した。

- (1) 中学校指導要領並びに養護学校指導要領に準拠して編成する。
- (2) 軽度精神薄弱児を対称にする
- (3) 教科内容は、次のような9教科と2教科をとりあげる。

① 各教科

国語・社会・数学・理科・音楽・美術・技術家庭・英語

② 領域

道徳・特別活動

- (4) 指導形態として、次の3つを取り上げる

① 教科・領域をあわせた指導 ② 教科別の指導 ③ 領域別指導

(1) 年間指導計画

領域・教科を合わせた指導	教 科 別 の 指 導											
	生活単元	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生活単元	新しい学年 年間行事 身体測定	生活とときま り学校・学級諸 検査・病気の 予防と手当	交通安全自 転車のり 交通事故 避難訓練	交通安全自 転車のり 交通事故 避難訓練	おが夏休み 盆(行事) 休みの過ごし 方海水浴	宿泊学習	体育祭	市内 特殊学級 レク大会	年賀状 冬休み・大晦日 ・反省・新年の 決意	今年の目当 てとおしだ ま貯金	文集づくり	文集づくり
作業学習	工具・農具の 手入れ 土づくり 栽培園の整地	栽培 アイロンかけ 花園等の札作 り	木材加工 が敷き作り コサツメ 扱い方・つぎ方	調理実習 切り絵	調理実習 切り絵	栽培園の整地 苗作り ワリバシ工作	肥培管理 水鉄砲の製 作	カレンダー マガジンラ ックの製作	紙づくり 竹細工 子猫の鉛筆立 て	ワリバシ工作 郵便受け又は 工具箱	ワリバシ工作 パズル作り	調理実習 パズル作り
国語	新学年を迎え 報告・諸届け 電話のかけ 方	五月の祝日 標識と標語 標語さがし	辞典の引き方 漢字さがし 意味調べ	暑中見舞いハ ガキ 手紙の書き方	夏休みの 思いで 新聞	夏休みの 思いで 新聞	物語 読み聞かせ 短文(メモ)	修学旅行 電話	年賀状 手紙	新年の抱負 書き初め	ことわざ ポスター	履歴書の 書き方
社会	私たちの市 世界の国々 人口・面積	世界の中の日本 位置・面積 人口・文化 地域の見方	地図の記号 沖繩の位置	沖繩伝説 沖繩の偉人	沖繩伝説 沖繩の偉人	九州地方	四国地方	中国地方	近畿地方	中部地方	関東地方	東北地方 北海道
数学	大きい数 万・億 加法と減法	時計の加減 かけざん九 九	かけざん九 乗法と除法 体温計 温度計	長さ・重さ 単位と測定 (m・km) 面積・体積	長さ・重さ 単位と測定 (m・km) 面積・体積	角度 分度器の 使い方 分数	三角形と 四角形 簡単な図形 の名称	分度器とコ ンパス	貯金通帳 利息と割合	電卓の 使い方 分数	消費税と 割合 負の数	長さ・重さ ・量
理科	体の名称と 働き 病気の 病院と病氣	つゆと衛生 春の植物の増え 方	人の体 菌と健康 心臓と血液	肺の働き 呼吸と脈拍	肺の働き 呼吸と脈拍	植物と栄養 栄養素 伝染病 寄生虫	動物の世界 昆虫	植物の世界	地球 六大陸 海洋 気候(南半球)	宇宙 太陽と地球 月と星	熱の働き 物の暖まり方 熱の伝わり方	力・電氣 てこ 風力 水力・火力
音楽	校歌 声を合わせ て歌う	リズムに合 わせて楽器 を叩く こいのぼり	楽器の名称 春がきた ピクニック	リズム 花 夏は来ぬ	リズム 花 夏は来ぬ	リズム みかんの花 さく丘	二拍子の練 習 山の歌	沖繩の民謡	クリスマス の歌	日本の民謡 笛	レコード 鑑賞 笛	別の歌
美術	写生(風景) いろいろ花	切り絵 えのぐ遊び	写生 ねんど遊び	粘土で動物 を作ろう	粘土で動物 を作ろう	焼き物 ねんど	焼き物	色の種類 色紙	えのぐ遊び 模様を作る	鑑賞 美しい絵を 見よう	版画	版画
保体	健康と身体 マツト運動	環境衛生 ソフトボール	生活の安全 ソフトボール	健康と栄養 マツト運動	健康と栄養 マツト運動	病氣と予防 水泳	走・競技 フォーク ダンス	バレエボール 卓球	規則正しい 生活 縄とび	卓球 持久走	病氣と治療 フォーク ダンス	ダンス バトミントン
英語	アルファベ ットの歌	ローマ字 ローマ字の 看板さがし	友達の名前 をローマ字 で書こう	4単語の暗唱	基本文 I AM~ My name がいろいろ	曜日・月がい える 物の名称	標識の意味 ローマ字	ローマ字 簡単な単語の 暗唱	ローマ字 簡単な単語の 暗唱	辞典の引き 方 辞典で遊ぶ	辞典で遊ぶ 日常の挨拶	色の名称 基本文の 暗唱

(2) 年間指導計画

[illegible]

Ⅶ 作業学習

精神薄弱の子どもたちに「生きるすべ」を教えるという切実な要求の中から作業学習は生まれ、学習指導要領の告示と三度わたる改訂がおこなわれるなかで作業学習は精神薄弱教育に根付いていった。作業学習は教育内容の面からみると学習指導要領の各教科や道徳、特別活動・養護・訓練等の内容を合わせた総合学習である。人間と動物の違いは、人間が工夫して物を作る技術を持っていることだといわれる。この技術を上手に使って、自然にはたらきかけて、さまざまな知恵を身につけ、たえず進歩してきた。この物を作る経験を通して「生きる力」「完成した喜び」「自分も作れるという自信」を付けるのが作業学習のねらいである。また、持続力、責任感、協調性などの基本的な態度・能力を培い、仕事に対する自信を付け、職業自立する心理的な基盤を付けるのに重要である。作業種目を選定するには、個々の生徒の実態が一樣ではなくまた平均化することもできない。施設、設備や生徒の興味・関心を考慮し、下記のこと配慮して選定する必要がある。

- ① 生徒にとって、教育的価値の高い作業活動等を含んでいること。
- ② 地域性に立脚したものであること。
- ③ 生徒と実態に応じた段階的な指導ができるものであること。
- ④ 障害の実態が多様な生徒が取り組める作業活動を含んでいること。
- ⑤ 共同で取り組める作業活動を含んでいること。
- ⑥ 作業活動に参加する喜びや完成の喜びが味わえること。
- ⑦ 作業内容が安全で健康的であること。
- ⑧ 製品の利用価値がたかいものであること。

作業学習の意義として社会生活への意欲的な参加をめざし、自立するために必要な職業、適応能力及び社会性を育て、「職業生活及び家庭生活に必要な基礎的、基本的知識、技能を身に付けさせるとともに、勤労を重んずる態度を養い、進んで社会生活に参加していく能力を培う」と作業学習の手引きに記載されている。多種多様な作業種目の中から今回はつぎの理由で木工をとりあげ、年間計画、展開例、実践例を通して研究を進めた。

- ① 材料が手に入りやすく天候に関係なく、年間を通して扱うことができる。
- ② 日常生活で、身近に使われているものが多く、作り使う喜びが味わえる。
- ③ 使う道具や機械の操作が簡単である。
- ④ 作業時間が長短あり、作業種目が取り入れやすい。

作業学習の内容を豊かにするための必要な要件として次のことが考えられる。

- ① 基本的な欲求（創造的・製作的な衝動、活動意欲）や興味を大切にする。
- ② 手や指先の活動、道具を使用しての活動を大切にする。
- ③ 活動体験、成就体験を大切にする。
- ④ 社会的なつながりを大切にする。

(1) 年間指導計画例

作業学習（木工）年間指導計画

職業生活及び家庭生活に必要な基礎的、基本的知識、技能を見に付けさせると共に、勤労を重んずる態度を養い、進んで社会生活に参加していく能力を培うことをねらいとして、「道具から題材へ」を基本に次のような観点で年間指導計画を作成した。

- ① 本校にある工具及び機械を使う題材を設定し配列した。
- ② 生徒の興味を考え実用的な題材を設定した。
- ③ 完成の喜びを大切にしていけるよう作業工程のあまり複雑でない題材を設定する。

月	題 材	学 習 内 容	留 意 点	材料・道具
4	学習と仕事 道具の使い方 設 計 材 料	・働く意義を理解させる。 ・場に応じた服装の大切さを知らせる。 ・工具の用途と使い方を体得させる。 ・簡単な製図の見方書き方。 ・材料の使い方	職業・賃金等をわかりやすく説明する。 作業にあった服装の大事さをおしえる。 安全と危険は表裏一体であることを悟らす。	かなづち のこぎり 糸ノコ かんな やすり 三角定規
5	花壇の掘り作り 立て札	・目的に応じた囲いの必要性を知らせる。 ・塗装の効果 塗装の仕方を知らせる。 - 植物・花木の名称をおぼえる。 ・キリの効用を知る。	キリで穴をあけてから釘をうつようにする。 塗装の時は換気に気をつける。	花壇に応じた材料 竹 杉材 キリ ノコぎり げんのう 釘
6	ナベ敷きをつくろう	・糸ノコの効用を体得する。 ・身の回りを改善しようとする意欲をもたす。	バーナーの使い方は気をつけ最初は教師が示す。 量産して販売も考える。	杉板 バーナー 型紙をつくっておく 糸ノコ

月	題 材	学 習 ・ 目 標 ・ 内 容	留 意 点	材 料 ・ 道 具
7	切り絵	カッターの使い方を体得させる。 手に巧知性をつける。 忍耐をつける。	見本を示す。 カッター用のしたじきの必要性を話す。 切り方、色彩など良いところをほめる。	原版 色紙 カッター のり
9	ワリバシ工作	創造力をつける。 ワリバシの家 チリ紙入れ 貯金箱など	用具がきちんと整っているか、正しい扱い方をしているか気を配る。	ワリバシ ガムテープ 糸ノコ 杉板 ダンボール
10	水鉄砲の製作	遊び道具を自分でつくろう。 柄の作成 組立て 調整	ひび割れがないか事前でチェックする。	節のついた竹 木綿の布切れ
11	マガジンラックの製作	自分の身近なものに応用できるようにする。 バーナーで焼くのと塗装との違いを知らず。	釘を打つ前にキリで穴をあける。 型紙を作っておく。 水できれいに洗う。	型紙 杉板 バーナー ボンド 糸ノコ
12	子猫の鉛筆たて	糸ノコを上手に使うようにする。 身の回り修繕し、簡単なものを自作して使う。	図面をコピーして板にはりつける。又は型紙を用意して図を書かす 糸ノコで図面通り切る。 修正して色を塗る。	ベニヤ又は節無し の板 型紙 ラッカー
1	郵便受け又は工具箱	身の回りの物を応用し制作意欲を高める 糸ノコの用途を知り自由に使えるようにする。	簡単な物であらかじめ型紙などを作っておくとよい。 見本を示す。	塗 料
2	地図を パズルにしよう	市町村名を覚える	トリノコ用紙に書き、カッターで切り取ってもよい。	ベニヤ カーボン紙
3	地図を パズルにしよう	地方別にパズルを作る。		ベニヤ カーボン紙

VIII 指導の実際

三 角 形 と 四 角 形

1 題材名：三角形と四角形

2 題材設定の理由

養護学校指導要領の数学の目標に日常生活に必要な数量や図形などに関する初歩的な理解を深め、それらを扱う能力や態度を育てる。その内容の中に簡単な図形や図表を理解し、生活の中で使う。それを受けて次のように授業を設定した。

私達の身のまわりにはさまざまな形をした事物（図形）が無数に存在する。いろいろな図形が三角形と四角形が組み合わされて出来ていることを理解させる。三角形の基本である二等辺三角形や正三角形の特徴を明らかにする。図形に興味・感心を持ち、図形のもつ美しさや不思議さに少しでも感動を覚え、図形の組合せに意欲をもたす指導をしたいと思い本題材を設定した。

3 題材の目標

- (1) 二等辺三角形や正三角形の名称を知り、その特徴を知る。
- (2) 長方形、正方形、直角三角形を書いたり作ったりできるようにする。
- (3) 辺、頂点、直角などが分かり、それらの言葉を正しく使えるようにする。
- (4) 正方形、長方形、直角三角形の面積が出せるようにする。
- (5) 具体物から図形を取り出すことで、興味・関心をもたせ、新しい観点から図形を見る態度を育てる。
- (6) 糸のこを上手に使い、遊び道具（自作教材）を作ることによって製作しようとする意欲を引き出す。
- (7) タングラムを通して創造力をつける。
- (8) 三角形と四角形を組合せて、いろいろな図形を作る喜びをもたせる。

4 指導計画

・二等辺三角形と正三角形 (2)

親しみのもてる形から三角形と四角形を分類しそうでない形とをわけながら、頂点・辺の用語を教え作図までできるようにする。A君は面積のだしかたまで指導する。

・直角三角形と直角の記号 (2)

三角定規、さしがね（差金）で直角を具体的に示す。

身の回りから直角さがしをする。

・正方形と長方形 (1)

長方形の紙から正方形を切り取らせ長方形と正方形の特徴を知る。

・まとめと練習 (1)

・いろいろな図形の組合せ (2)

ベニヤ板 (30cmの正方形) に作図させる。

糸ノコで線にそって切り取る。

タングラム遊びをする。

5 本時の指導：図形の組合せ

(1) 本時の目標

- ・安全に注意し、糸のこを上手に使えるようにする。
- ・三角形と四角形を組合わせて図形を作る遊びで図形に関心をもたす。
- ・A君の場合は図形の面積は四角形や三角形に分けて計算することを理解させる。
- ・四角形は三角形に分けられることを理解させる。

実態と指導のねらい

* A達成できた

B普通

C努力を要する

	生徒の実態	留意事項	指導のねらい		評価の観点	A B C
			態度面	技術		
M 子	糸ノコで線にそって切る事はできるが依頼心が強く、自信を持って作業にあたるとか、自ら考えて行動することはまだまだである。	言語障害があるので、ゆっくり話すように気を配る。	正しい姿勢 服装で作業にあたる。	線にそって正確に切断させる。	正しい姿勢・服装	
					切断	
					できばえ	

* A達成できた

B普通

C努力を要する

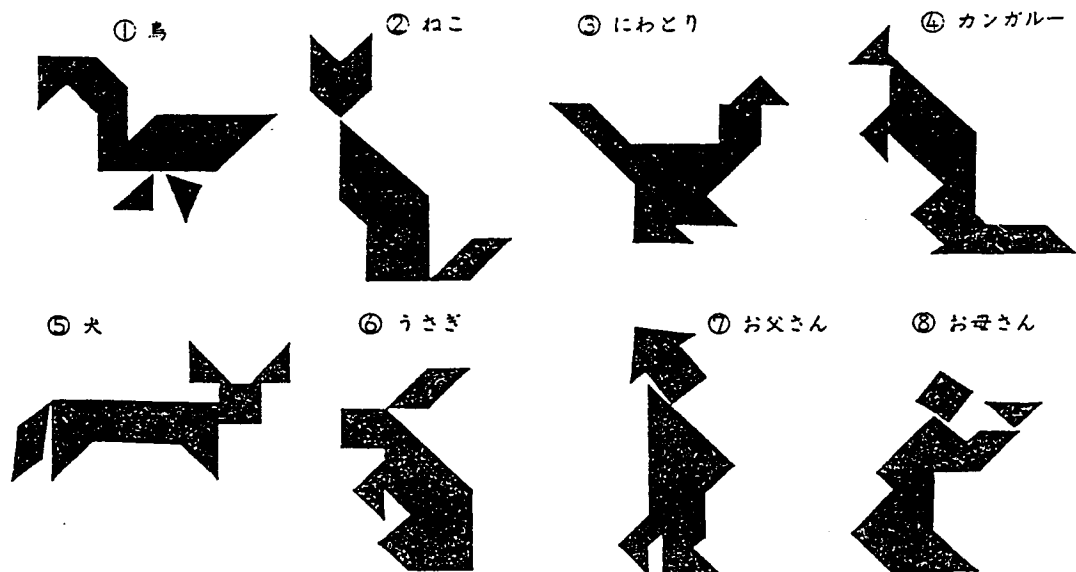
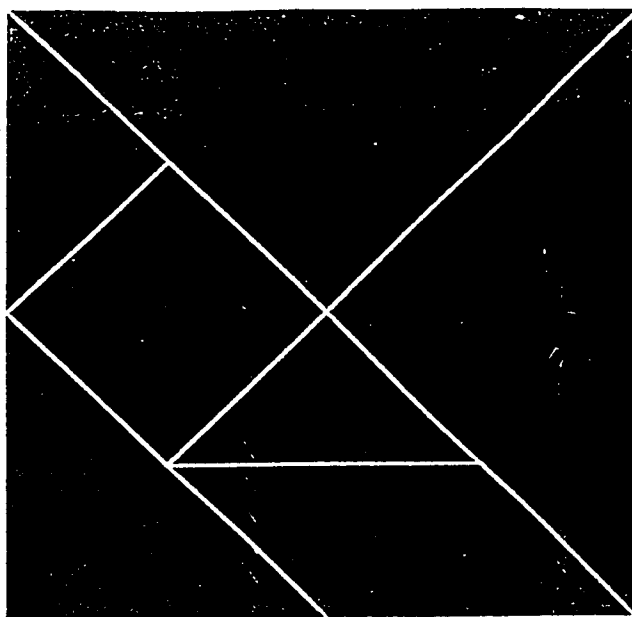
	生徒の実態	留意事項	指導のねらい		評価の観点	A B C
			態度面	技術		
T 子	糸ノコを自由に使うことができる。 仕事の工程の理解は早い。 あきっぽい。	包容力が弱く注意を受けるとカッとなるのでその時は間を置く。	忍耐力をつけ素直に指示に従うように心がける。 図形の合成に興味をもたせる。	切断、作業等の仕事迅速にさせ、能率が上がるようにする。	正しい姿勢・服装	
					忍耐力(完成)	
					できばえ	

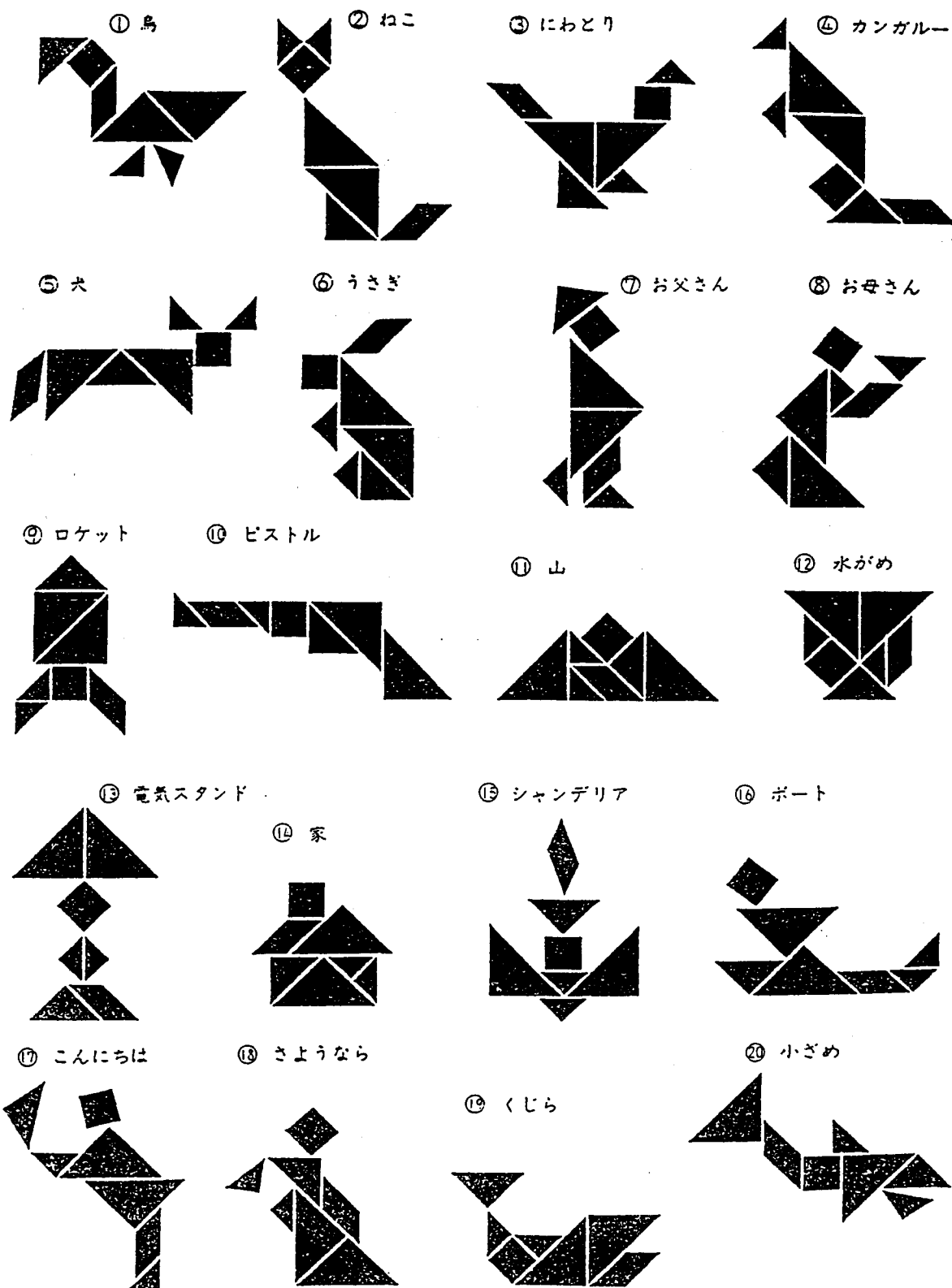
(2) 展 開

時間 配当	学習活動と内容	指導上の留意点	材料と教工
5	1 本時の学習についての説明を聞く。 * 遊びかたの説明 ベニヤを配る	作業の服装、安全面の確認をする。 図形の名称を想起させる。 遊びかたをせつめいし興味をもたせる。	一辺が30cmの正方形のベニヤ板を3枚準備する。 線引き マジック
15	2 木取り（製図をする）	（個別に確かめが必要）教師が板書きしながら、一つ一つともに製図する。 ①対角線を引く ②中点を取り②の線を引く ③③の線を引く ④④⑤の線を引く	
15	3 糸のこで切断する。	線にそって正確に切断させる 図形がいくつできたか点検のため、かぞえさせる。 遊び方の説明をする	糸のこの刃 参考図を準備しておく
10	4 タングラム遊びをする。	時間を計っていくつできるか競争させる。	時間がなければ、休み時間にやってみるように指示する。
5	5 まとめ 自己評価		

タングラム

右の図の様に線にそって切ると、
この四角形は7つの部分（正方形1
並行四辺形1、3種類の大きさの
直角二等辺三角形5に切り離されます。
これは16個の基礎三角形が組み合わさって
できたものです。これを並べると、
いろいろな形を作る遊びができます。
三角形の学習の発展として教材に
取り入れてみました。





作業学習評価表

年 名 前

記録 月 日

分野	項目	評 価				
		第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階
態 度	換気・特続	根気なくすぐあきてしまう。	声かけると何かと続けることができる。	ある程度続けることができる。	むらはあるが最後まで働く。	最後までよく働く。
	情緒の安定	感情の起伏が激しく、人に迷惑になる。	周りの状況に左右されやすい。	感情のみだれもあるが安定している。	感情的になることも少なく安定している。	落ち着いて安定している。
	意 欲	仕事にかかろうとしない。	介助が必要である。	積極性はないが一応はやる。	仕事によっては積極的である。	積極的に参加する。
	誠実勤勉	働くことを嫌がる。	なまけぐせがあり、いいかげんである。	だいたいまじめである。	かげひななく仕事をする。	少しでも良い仕事をしようとする。
	約束・きまり	約束・きまりに全く無関心である。	約束・きまりをほとんど守れない。	約束・きまりをたまに忘れることがある。	約束・きまりをほとんどやぶらない。	約束・きまりは必ず守る。
	自 主 性	ひとりではやろうとしない。	人に頼ろうとする。	時々自分でやろうとする。	できるかぎり自分でやろうとする。	自分からすすんでやる。
	準備・後始末	言われてもなかなかしない。	指示したらやるが長続きしない。	指示したらやる。	自らすすんでやることもある。	いつも自分からすすんでやる。
	協 調 性	仲間意識がない。	協力的でない。	指示すると協力しようとする。	協力的である。	友達に協力したり、助けようとする。
	確 実 度	ほとんど正確な仕事ができない。	仕事は不正確なことが多い。	仕事に手を抜くこともある。	正確に仕上げようとする。	ほとんど正確で安心してまかせられる。

(1) マガジンラックの作り方

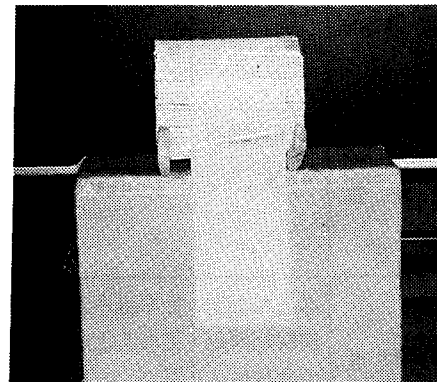
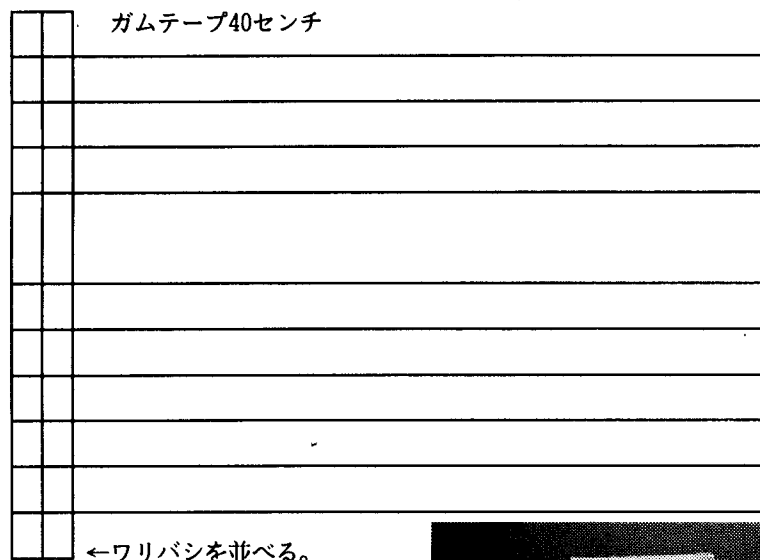
材料 杉板 横と底は電線のまかれていた

「輪」の中心を利用した。

- ① 図面にカーバン紙をあて裏白ボール紙に型紙を書く。
- ② 型紙を使って杉板に図を書く。
- ③ 糸ノコで切断する。
- ④ 組み合わせてバーナで焼く。
- ⑤ 水できれいに洗う。

(2) チリシ入れの作り方（ワリバシ工作）

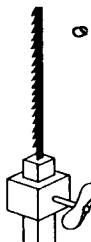
- ① 杉板に半径6.5センチの円を書き切り取る。
- ② 40センチのガムテープを3枚切りワリバシをならべる。
- ③ ②で出来上がった物を横38センチ、縦15センチに切る。
- ④ 丸く切り取った板に③をまきつける。



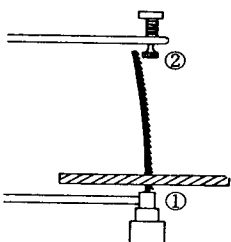
下の図をコピー又は型紙にして図をかかせ糸ノコで切断させる。

*板の厚さによって差し込む溝は違います。

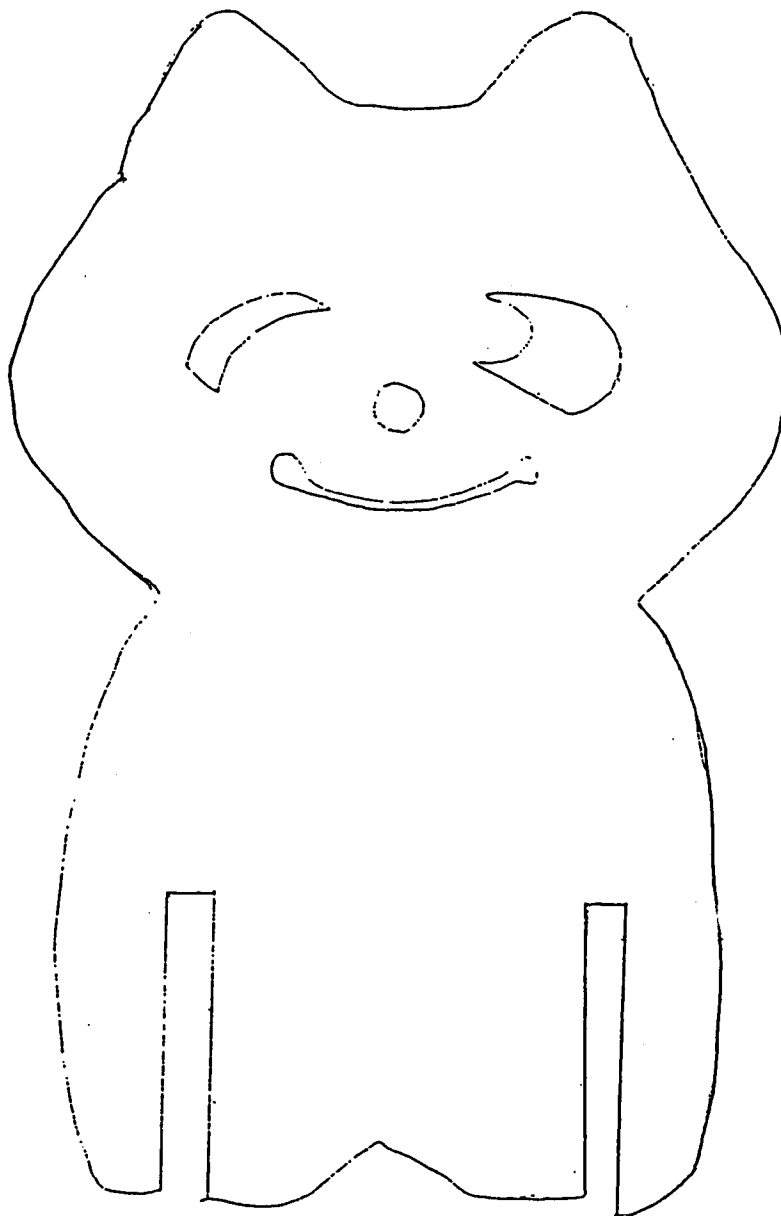
糸のこ刃の取り付け方



- 刃は手前に向け、下向きにつける。
- 止め金具のネジと反対側の間に差しこみ、ネジを強く締める。



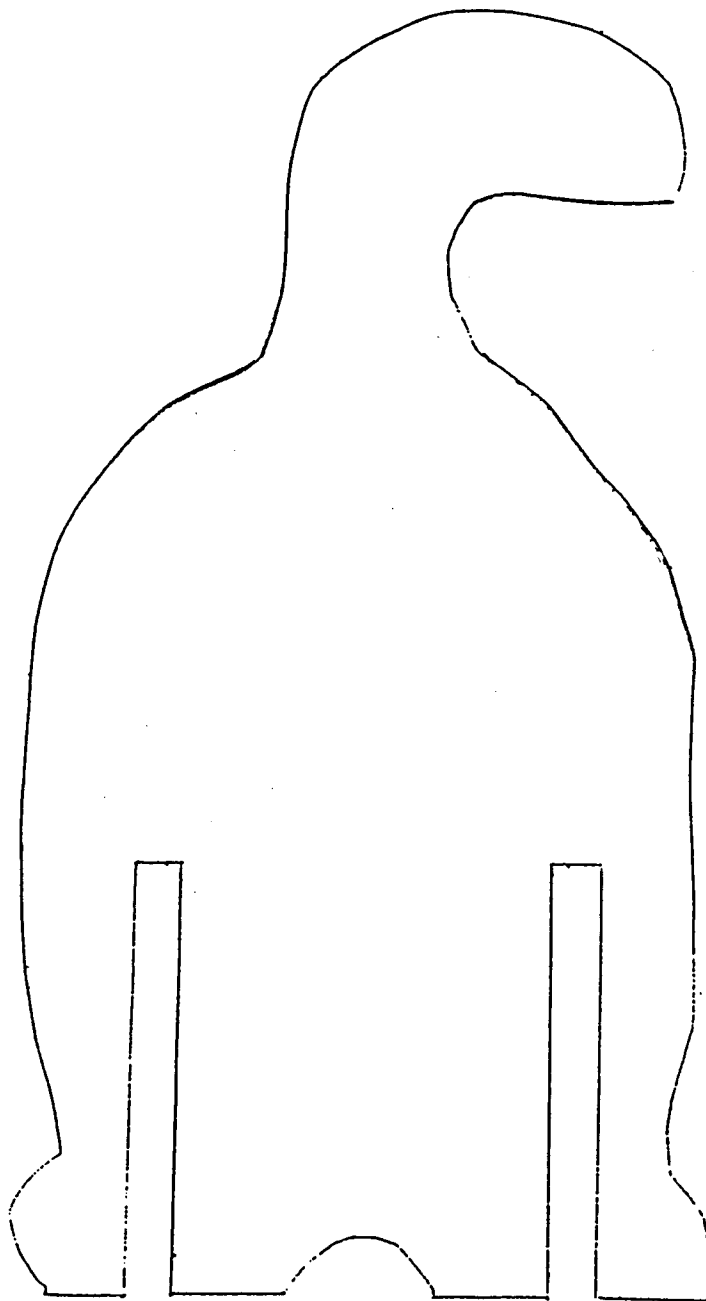
- ①始めにのこ刃を下側の金具に止める。
- ②のこ刃がぴんと張り、上側の金具に止める。



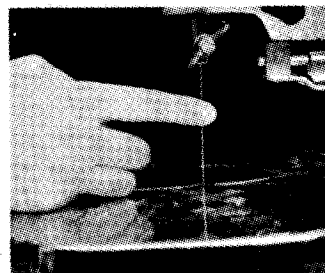
子猫の鉛筆たて作り ー資料実物大ー

下の図をコピー又は型紙にして図をかかせ糸ノコで切断させる。

*板の厚さによって差し込む溝は違います。

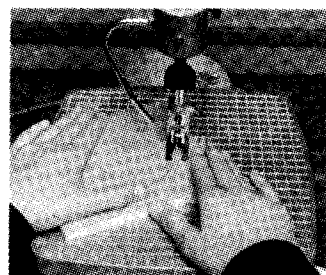


糸のこの引き方



指で軽くおして張り具合を調べる。

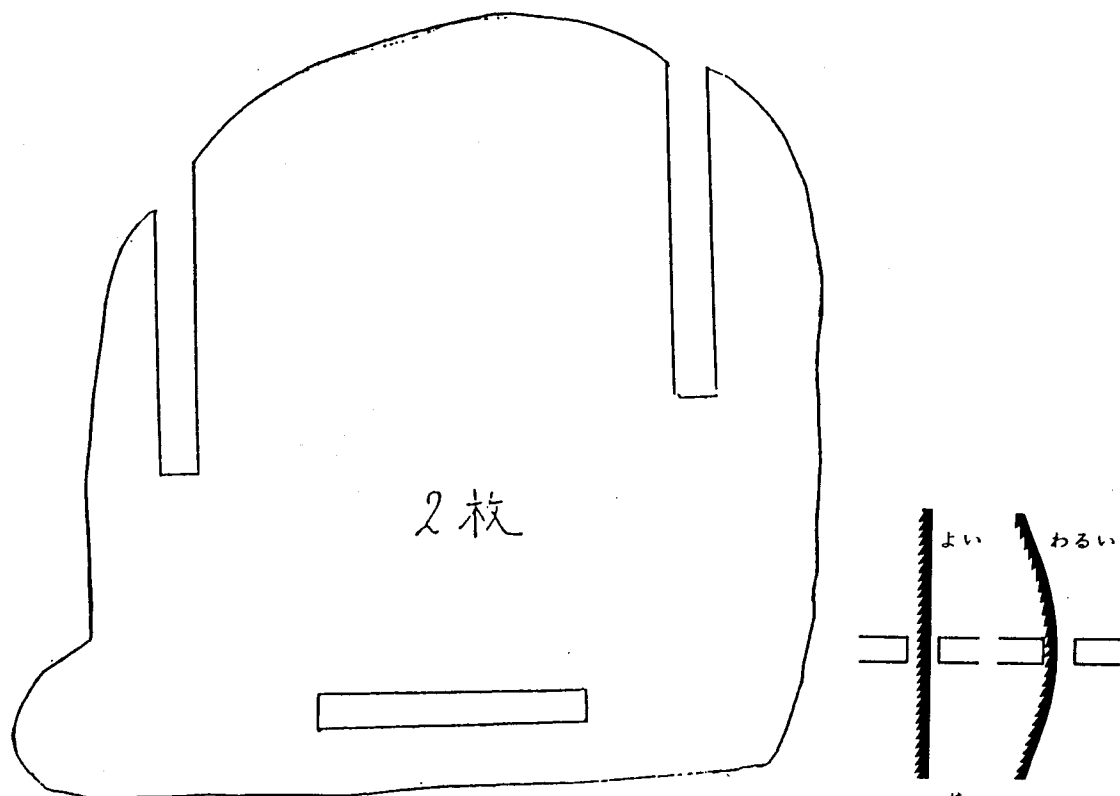
□電動糸のこ盤^{はん}



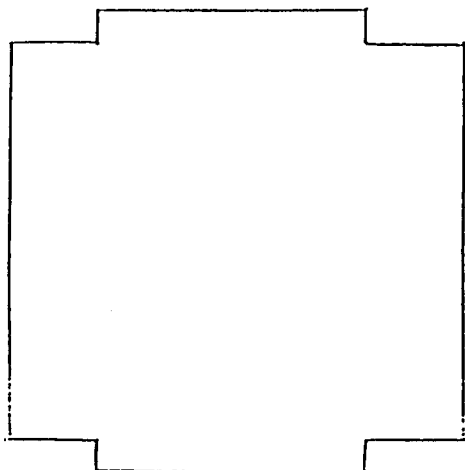
子猫の鉛筆たて作り 一資料実物大一

下の図をコピー又は型紙にして図をかかせ糸ノコで切断させる。

*板の厚さによって差し込む溝は違います。



材料をしっかりとおさえ、のこ刃^はの働きに合わせて板をゆっくり進めて切る。刃に無理な力がかからないようにする。



曲線びきの方法

糸のこや糸のこ盤を使う。糸のこ盤で切断するときは材料をゆっくり送る。また、機械に顔を近づけない。



IX まとめと今後の課題

特殊学級における教育課程については、原則として小・中学校の学習指導要領に基づいて編成されるが、特に必要がある場合は特別の教育課程によることができることになっている。ややもすると毎年作成する教育課程を特別に編成しながら、「特に必要がある場合」という文言をどれだけ、重視したのか疑問になる。生徒の実態を正確に把握しどの程度まで伸ばそうと想定したのか、今回の研究の過程で反省させられた。個々の生徒の実態に応じた、教育課程の素案作りを担当すべき学級担任は、児童及び生徒の心身の障害に基づく種々の困難を克服させるためにどのような知識、技能、態度及び習慣を培うべきか重大な責任を負うべきである。この責任を負うためには、生徒の実態を的確に把握するために、日々の行動をよく観察すると共に、教師の豊富な知識が要求される。したがって、これからの教育活動は、常に障害に基づく種々の困難の克服をめざして、「実態把握を的確にし」適切な指導計画を立てるように頑張りたい。

個々の精神薄弱児に対応のしかたが変化し、年間指導計画の作成、作業学習に対する考え方が変わったことは大きな成果と言える。作業学習は月ごとに配列はしたけれども、子供の実態に応じて取り入れる考えで作成した。今後、生徒の動き、指導の展開例を作成し、日々の授業で活用を工夫していきたい。

最後に、研修の機会を与えて下さいました宜野湾市教育委員会、御指導していただいた先生方に心より感謝申し上げます。

主な参考文献

- | | | | |
|-----------|----------------------|----------|-------|
| ・宮本茂夫 | 講座・障害児の発達と教育 | 学苑社 | |
| 細村迪夫 | 教育課程 8 | | 1982 |
| ・沖縄県教育委員会 | 心身障害児の理解と教育 | 沖縄県教育委員会 | 平成3年 |
| ・文部省 | 特殊教育諸学校 | | |
| | 小学部・中学部学習指導要領解説 | 東洋館 | 平成3年 |
| ・山口 薫 | 養護学校 } の学級経営
特殊学級 | 明治図書 | 1984 |
| ・山口 薫 | 作業学習・後期中等教育 | 明治図書 | 1984 |
| ・文部省 | 作業学習指導の手引き | ぎょうせい | 昭和60年 |
| ・文部省 | 精神薄弱特殊学級 | | |
| | 教育課程編成の手引き | 海文堂 | 平成4年 |